

## 区政会議における主な意見(地域保健福祉関係)の進捗状況

区政会議		意見	対応方針・対応	進捗状況
平成30年度	第2回全体会	大阪市が実施していた高齢者俳句大会のように、俳句・川柳・短歌を高齢者だけでなく幅広い世代が発表できる機会を検討してほしい。	俳句や川柳については、老人福祉センター等の関係機関とも連携・調整しながら企画検討していきたい。	令和元年度に老人福祉センターと鶴見図書館が協力し、俳句に関するイベントを実施した。区はこれらの行事開催の際に広報周知に協力し、幅広い世代の参加を図った。
令和元年度	第1回全体会	地域の福祉は12地域の地域活動協議会が行うべきだが、「つなげ隊」は区社会福祉協議会と契約しているため、地域活動協議会の中で正確に事業を把握していない地域もある。その辺りはそろそろ変えていく必要があると思う。	「つなげ隊」は地域から推薦された方をお願いし、地域の福祉活動と連携し、さまざまな課題を抱える人の相談対応に取り組んでいるが、区政会議での意見も参考に、より地域と連携できる工夫などを検討していく。	地域情報をまとめた、該当地域のまちづくりレポートをつなげ隊に配布し、地域資源などを共有した。 つなげ隊の幅広い相談業務などについて区役所や区社会福祉協議会と話し合い連携を深めた。 つなげ隊連絡会において、公表されている区政会議でのご意見を全てお示しし、特につなげ隊に関するご意見や対応方針について説明を行った。 つなげ隊連絡会の議事録を作成し地域へ情報を持ち帰ってもらえるよう工夫した。
令和元年度	第1回全体会	私の地域の地域活動協議会には地域福祉部会があるが、これまで区社会福祉協議会、区役所、つなげ隊の組織とは連携ができていないと不満に思っていた。最近では「つなげ隊」を中心に町会長の協力のもと「ふれあい員」をきちんと確定させ見守りを始めている。つなげ隊、区社会福祉協議会、地域活動協議会の地域福祉部会がもっと連携できる組織にしてほしい。	すでに、各コミュニティソーシャルワーカーは担当地域を持ち活動しているが、委託先である区社会福祉協議会と相談しながら、より地域に見える支援となるような方法を考えていく。	部会での意見を踏まえて区社会福祉協議会と協議し、機会を捉えて積極的に「各地域活動協議会における福祉に関する会合」に参加するよう順次進めている。
令和元年度	第2回部会	コミュニティソーシャルワーカーはもう少し地域の会議等に出向いてもらい、活動内容を地域に報告する方がいい。		

## 区政会議における主な意見(地域保健福祉関係)の進捗状況

区政会議		意見	対応方針・対応	進捗状況
令和元年度	第2回部会	閉じこもりの高齢者などを、引っ張り出し活動に参加してもらうことが必要である。何か仕事をしてもらうことで認知症の予防にもなると思うので、集まって活動できる新しい仕組みができればいいと思う。そういう仕組みを行政も考えてほしい。	大阪市では、外出機会の増加や社会参加の推進を図ることで、生きがいづくりや介護予防をめざし、「介護予防ポイント事業」を実施している。また、区独自事業として、有償の支え合い活動「まちの支え合い活動(通称「あいまち」)」を展開し日常生活の“ちょっとした困りごと”の手助けを行っている。 このような制度を広く周知し、活動の担い手となっていただけよう周知方法や広報など工夫を凝らしていく。	地域の高齢者の社会参加を促進するために、担い手として有力な定年を迎えられた年齢層の意識調査を来年度に実施し、新たな担い手の確保に努める。
平成29年度	第3回部会	長野県で食生活習慣を県全体で見直して、健康寿命が延びたという事例もある。 また、野菜を作る所から始めて、取れた野菜を使ってお料理をするというものがあればよい。	レシピコンテストのテーマや野菜づくりについては関係団体と実施について検討していく。また、『わたしのおすすめレシピ』として魚嫌いや食物アレルギーの方でも楽しく食べられるレシピ紹介を広報紙等で情報提供していく。	協賛企業の確保が難しく、レシピコンテストは実施していないが、食育ネットワーク関係事業所、食生活改善推進員協議会に協力いただき、毎月の広報紙で食物アレルギーの方、魚嫌い、野菜嫌いの方への工夫メニューを掲載し、食に関する情報の充実を図っている。 野菜づくりについては場所の確保が難しいため、区内のボランティア団体が栽培する野菜を活用した調理実習の開催を行うとともに、ボランティア団体の活動を周知・啓発を行うことで、ボランティア活動への参加に繋げるなど連携を取っている。
平成30年度	第2回部会	鶴見区はメタボ該当者が多いということで、ウォーキングは効果があると思うが、具体的にどのように取り組んでいこうと考えているのか。また、年1回ではなく、月1回から月2回などステップアップしていくプログラムも良いのでは？	健康づくりに取り組んでもらうきっかけづくりとして、ウォーキングには以前から取り組んでおり、昨年からは鶴見緑地を活用している。今年度は2回実施するが、回数など実施方法については参加者アンケートの結果を見ながら検討していく。	アンケートでは、約8割の方が効果的なウォーキングの方法を学べてよかった、今後もウォーキングを続けていきたいとの意見をいただいている。 回数についての意見は少ないため、今後も効果的なウォーキングの習得の場とし、運動継続については、ウォーキングマップの活用を進めていく。
平成30年度	第2回部会	大阪市の委託事業として、社会福祉協議会が行う介護予防教室(ステップ教室)は、毎月体操の他、小物づくりや栄養指導など様々な内容を行っている。そことウォーキング教室がコラボしてみるというのはどうか？	ステップ教室は介護予防の講座であり、持病を持っている方の参加も多く、ウォーキングが難しい方も多いが、メニューについて、今後区社会福祉協議会と検討していく。	ステップ教室とウォーキング教室とのコラボについては、区社会福祉協議会と検討した。ステップ教室は介護保険利用者も対象であるが、ウォーキング教室は効果的な歩き方の習得で生活習慣病予防を目的としていることから対象者が異なり、コラボは難しいと考える。

区政会議における主な意見(こども教育関係)の進捗状況

区政会議		意見	対応方針・対応	進捗状況
平成30年度	第1回全体会	<p>児童虐待防止については、ステップファミリー(※)に対して、何らかのフォローすることが最も有効な手段であると考えます。</p> <p>※どちらかに子どもがいて再婚して、新たに築かれる家族のこと</p>	<p>区としても、要保護児童対策地域協議会への登録児童にステップファミリーも多く、当該世帯に対して、よりきめ細やかな対応を行っているところである。</p> <p>児童が6歳未満の転入世帯については、ステップファミリーも含め、全件、母子手帳の住所変更手続き時に転入面接を実施し、保護者の方と話をする機会を持ち、子育てに対する相談に対応しているが、今回のご意見を踏まえ、更なる対応を検討していく。</p>	<p>子育て講演会「ステップファミリーにおける親子関係の理解」を令和2年1月23日に開催し、課題解決に向けた知識や対応を学んでいただくための機会とする。</p>
平成30年度	第1回全体会	<p>児童虐待防止については、職員だけでは限界がある。もっと地域連携すべきではないか？</p>	<p>各地域の民生委員、特に主任児童委員と一緒に、定期的に学校等と情報共有や支援について協議・検討を行っているが、もっと裾野を広げ、地域全体で連携した取組み等、方策について検討していきたいと考えている。</p>	<p>民生委員、主任児童委員、区社会福祉協議会、子育て支援センター、子ども子育てプラザ、つどいの広場、区内産婦人科助産師、新生児訪問助産師とともに「拡大子育て支援連絡会」を平成30年11月29日に開催。</p> <p>参加者アンケートでは「関係機関のつながりが深まった」など肯定的な意見が多く、令和2年1月30日に2回目の開催を予定している。</p>
平成29年度	第3回全体会	<p>生涯学習ルーム事業以外に、生涯学習の取組みを自主的に活発に取り組んでいるものについても、小学校を利用できるようにしてほしい。</p>	<p>各小学校の多目的室等で実施されている生涯学習ルーム事業は、区役所が各地域活動協議会に委託し運営している。</p> <p>生涯学習ルーム事業は、学習活動に取り組むきっかけ作りの場であり、できるだけ多くの新しい人が参加し学びの輪を広げていくことを目的に行っているため、同じ受講者で同じ講座を3年を超えて継続する場合は自主的に運営していただくこととしている。</p> <p>自主的な生涯学習活動の小学校利用については、取組みが様々な形で行われていることや、場所・スペースの制約といった課題があるので、今後の検討課題とさせていただきます。</p>	<p>生涯学習ルーム事業は、学校及び運営委員会との十分な連絡・調整のもと、学校教育に支障のない範囲で実施されている。限られた場所・スペースの利用となることから、生涯学習ルーム事業の趣旨・目的に合致する講座以外の利用は難しい現状である。</p> <p>生涯学習ルーム事業の趣旨・目的に合致する学習活動をされたい場合は、ひとまず区役所教育担当までご相談いただきたいと思います。</p>

## 区政会議における主な意見(こども教育関係)の進捗状況

区政会議		意見	対応方針・対応	進捗状況
平成29年度	第3回全体会	また、こうした生涯学習の取組みの活動発表の場が欲しい。	ただし、自主的に運営されている生涯学習活動の発表の場については、区役所2階の区民ギャラリーのさらなる利用の促進を図る。また、区民センター等を利用した展示や舞台発表等の場の提供についても幅広く検討していく。	区民ギャラリーを、より多くの皆様にご利用・ご覧いただけるよう、現在の区役所2階から1階の区民情報コーナーに移設する。 また、発表の機会の一つとして、区民センターで開催する区民文化祭への出演申込みなども検討いただきたい。
平成30年度	第2回全体会	3月の鶴見区生涯学習ルームフェスティバルの会場の照明が暗いので、作品が見づらい。もう少し照明を明るくすることはできないか。	鶴見区生涯学習ルームフェスティバルは、区民センター大ホールで舞台発表と展示を合わせて実施しているが、舞台発表を観易くするため舞台の照明を明るく展示側(客席)の照明を落としている。いただいたご意見は、生涯学習推進員連絡会とも共有し、対応策について検討している。	平成31年3月の鶴見区生涯学習ルームフェスティバルから、作品展示場所の照明を、一番明るくした状態で開催している。
平成30年度	第2回全体会	作品を展示したい方と展示スペースのある店舗や施設などとのマッチング、また、コーラス等技術・知識を持っている方とそれを必要とするところとのマッチングなどを個人的なやりとりではなく、区が紹介する仕組みができればよいのではないか。	知識や技術の提供、作品の展示をしたい、それらを受けたいなど相互のニーズをマッチングし、まなびを通しての交流が生まれる仕組みづくりについて検討していく。	生涯学習等で得られた知識や技術を提供したい人と、提供を受けたい人、また、生涯学習等の成果である作品等を展示したい人と、展示場所を提供できる人等のニーズをマッチングする仕組み「つるみ まなびのわか」を令和2年度に立ち上げる。
平成30年度	第2回部会	生涯学習の概念をわかりやすく発信することや、学んでいる人たちの個々の活動情報をマッチングする、また必要としている人につなぐ等の仕組みがあれば、地域の活性化というめざす方向に向かうのではないか。	生涯学習活動の充実や情報発信、学びを通しての交流が生まれるマッチングの仕組みづくりなどについて検討する。	
平成30年度	第2回部会	生涯学習ルームでもコーラスがあるが、「鶴見区で第九を歌おう」など、区民みんなが参加して歌えるようなイベントがあればと思う。	実施主体も含め、どのような対応が可能か検討する。	区民主体のイベント開催に向け、コーラスの生涯学習ルームをはじめ、区内でコーラス等の音楽活動をされている団体に働きかけを行った。
令和元年度	第2回部会	他都市では生涯学習の作品を広報紙で紹介している。このような取組みをおこなってはどうか。	今年度、広報紙で各生涯学習ルームを連載で紹介している。引き続き取り組む時に作品の紹介などについて検討する。	今年度、広報紙で生涯学習ルームの活動紹介を連載する中で、作品の紹介もしてきたところである。今後も、機会をとらえて紹介していく。

区政会議における主な意見(防災・防犯関係)の進捗状況

区政会議		意見	対応方針・対応	進捗状況
平成 29年 度	第3回 部会	災害時地域協力貢献事業所に対し、地域の防災訓練への参加を求める等、日頃からの連携を大切にすべきである。	登録制度が始まり5年以上経つことから、現在、協力内容の変更の有無、また地域の防災訓練について情報提供を希望するかなど、アンケートを実施しているところである。 取りまとめ後は、地域に情報提供するなど、災害時の活用方法(物資の受け取り方や搬送方法など)について検討していく。	災害時地域協力貢献事業所としては、地域防災訓練への参加の必要性は十分理解されているところである。 訓練実施日が土日となっており、参加が困難であるとの回答がほとんどであったが、今年度より地域の求めに応じて、保存食等物資の展示で訓練に参加されるなど、可能な範囲で連携いただいているところである。
平成 29年 度	第3回 部会	地域内の小学校で防災訓練等の実施はしているが、中学校で実施したことはない。 また、訓練は地域単位で行っているが、実際災害が発生した場合、他地域からの避難者が想定されるため、その対応を含めた訓練を実施する必要があると思う。	災害発生時は中学校、高校も「災害時避難所」となるため、中学校、高校を使用した訓練も必要と考えている。 実施の際には、隣接する地域が参加できるようにするなど、より実践的な訓練となるような工夫を検討していく。	地域防災訓練は地域主体で実施する訓練のため、中学校下での防災訓練を実施する場合は想定される避難者の居住する地域、複数地域での合同訓練とする必要がある。 関係する地域間で訓練実施に向けた合意があれば実施は可能であるため、地域防災連絡会等で提案を行っていく。
平成 30年 度	第1回 全体 会	災害時一番大変なのは水の確保である。そのために、区の予算で、小学校や公園等に各地域1つ井戸を掘ることを提案する。	他団体の状況、費用対効果、設置者などの課題整理を行うとともに必要性も精査し、地域と調整していく必要がある。	井戸の掘削については学校の許可があればできるが、他都市等の実例を見ると、すべてにおいて掘削後の維持管理に問題を抱えていることから、学校・地域との調整等、慎重に検討する必要がある。
平成 30年 度	第2回 部会	災害時の臨時避難場所を開設・閉鎖する場合を含め連絡体制や対応をマニュアル化するなど再考してもらいたい。	連絡体制等対応について検討する。	現在は区として自主避難など事前に準備できる場合は地活協会長や防災リーダー隊長に予め連絡を入れることとしている。区役所からの連絡は会長、隊長までとし、各防災リーダーには地域内での連絡網の活用をお願いしている。 地震など突発的なものについては、避難所の開設・閉鎖も含めた自主防災組織の体制整備として、平成29年5月に市が作成した(令和元年6月に改訂)避難所開設・運営ガイドラインを基に進めることになるが、地震の規模、時間帯によっては地域において開設の要否を判断していただく事となるので、同様に地域内での連絡網の活用をお願いしている。

## 区政会議における主な意見(防災・防犯関係)の進捗状況

区政会議		意見	対応方針・対応	進捗状況
令和 元年度	第1回 部会	市営住宅に空き部屋があるのでそこを開放し災害時の避難場所にできないか。	大阪市の災害ワーキンググループで検討しているが、結論は出ていない。引き続き意見反映をしていく。	市営住宅の空き部屋を、一時避難所や備蓄倉庫として目的外使用をするにあたって、市有財産の有効活用の観点から、現在、大阪市の関係部局内において法的な面も含め検討が図られているところである。
令和 元年度	第2回 部会	災害時の通信手段としてLINEは有効であるが、スマートフォンを持っていてもLINEを使えない方がいる。防災訓練の時にでも講習をしてはどうか。	実施方法を含め検討する。	LINE等をはじめとするSNSについては、個人の携帯端末を使うこととなるので、個人情報の管理も含め最終的には自己責任となることや、LINEグループの乗っ取りやなりすましなどもあることから、取扱については慎重に進めていきたい。
令和 元年度	第2回 部会	区全体のハザードマップではなく、地域対応型のハザードマップにすることによりエリアの状況を拡大して見るできるようになり有用ではないか。	ハザードマップは危機管理室で一括作成しているため、地域対応型のマップについて危機管理室に確認のうえ対応について検討する。 また、国土交通省国土地理院がインターネットで公開している「重ねるハザードマップ」を紹介するとともに周知を図る。	危機管理室としては、データの更新の予定はあるが、今後も区単位での作成となり、地域対応型マップについては対応できないが、浸水深データの提供については検討するとの回答があった。 データの入手が可能な場合、区役所の作業で地域ごとのハザードマップに加工できるものか検討する。
平成 29年度	第3回 部会	防犯一斉行動について、効果があるのか。参加者の中でも、なぜ実施しているのかわかっていない人がいるなど、地域住民も知らない。ただ歩くより、危険箇所立つとか、自転車で回るなどやり方を変えればよいのではないか。	各地域の防犯推進委員との会議において、各地域の現状、今後の実施方法など意見交換を行い検討していく。 日頃からの子ども見守り活動や、防犯一斉行動など、地域が行う防犯活動について、広く周知を図っていく。	防犯推進委員と実施方法などの意見交換会をし、危険個所に立つという活動については、既に子どもの登下校時見守り活動で実施しており、自転車での活動については、車道を複数で走行することになり危険を伴うため、これまでどおり引き続き歩きながら児童に声掛けをしていくこととなった。 また、参加者や地域住民に事業目的を知ってもらうために、広報つるみで事業を周知するとともに、参加を募っているところである。